

# 未来予想図

～Dreams Come True～

20年後の登別市

大阪国際大学	田中	優	ゼミ
発表者	松田	達磨	
メンバー	今尾	勇太	
	三登	康太郎	
	茂木	勇太	
	根岸	昂生	

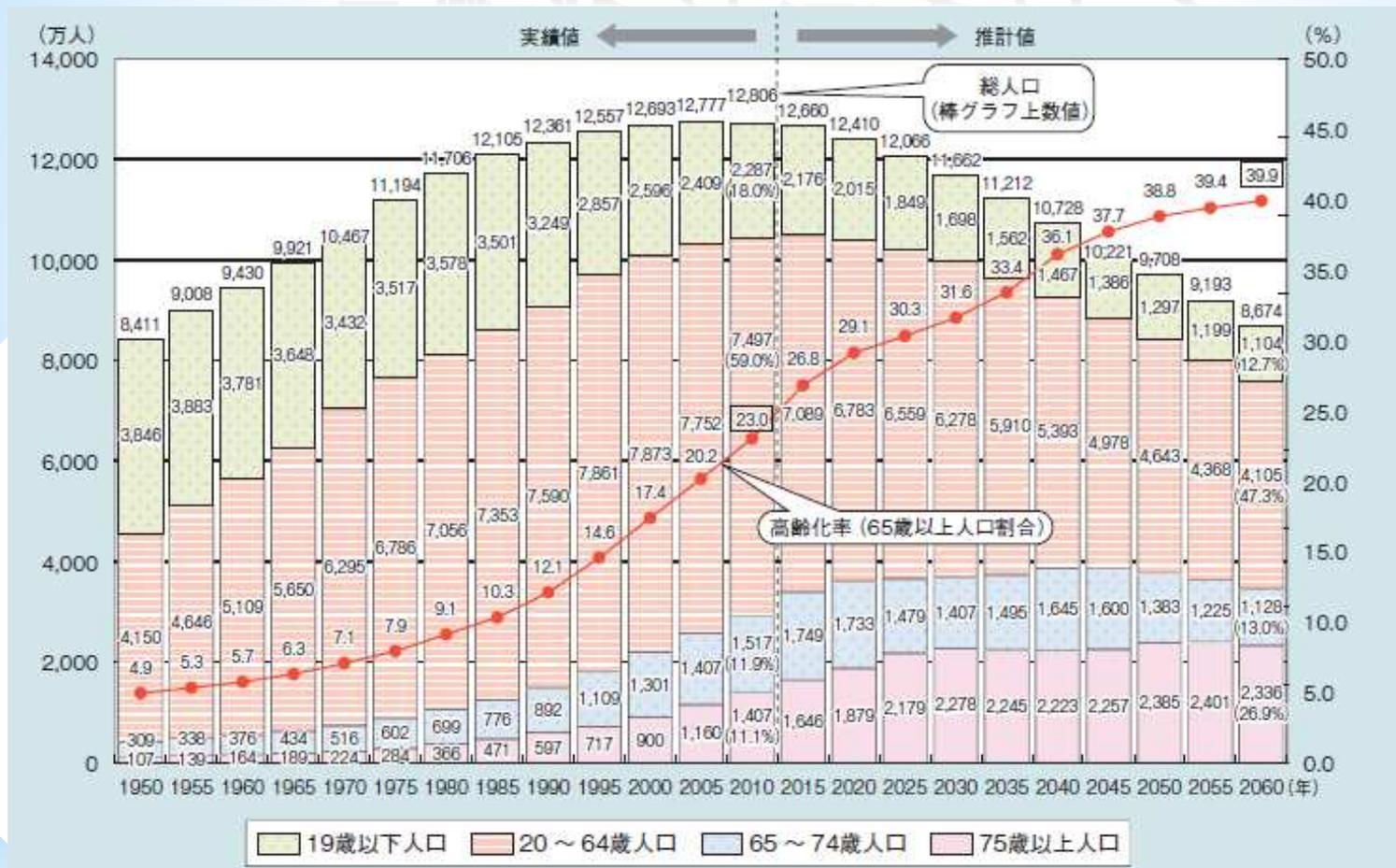
# 目次

- \* 登別市の理想像
- \* 問題提起
- \* 現状
  - \* 登別市の高齢化状況・アンケート
  - \* 住民同士のつながり・祭り・イベントの比較
  - \* 住民の温泉地利用状況・アンケート
- \* 結果（問題点）
- \* 解決策
- \* まとめ

# 20年後住みたいくなる理想の登別

- ① 老後にも充実した生活を過ごせる
- ② 向こう三軒両隣のつながり
- ③ 温泉地と市民が協働し合っている

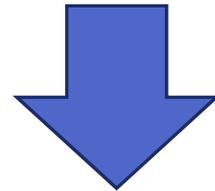
# 高齢化社会とは？



\* 今後、高齢化社会が進んでいく中で、住民同士の助け合いが求められる

# 問題提起

理想① 老後にも充実した生活を過ごせる



登別市は高齢化社会への準備は出来ているのか？

# ①

# 登別市の高齢化現状

人口 52,199人  
世帯数 24,767世帯  
少子化率 3.5%(4歳以下)  
高齢化率 27.8%(65歳以上)  
H.22 3月31日現在

日本の推定高齢化率  
2020 29.1%  
2030 31.6%  
2050 38.8%

人口 51,892人  
世帯数 24,846世帯  
少子化率 3.5%  
高齢化率 28.3%  
H.23 3月31日現在

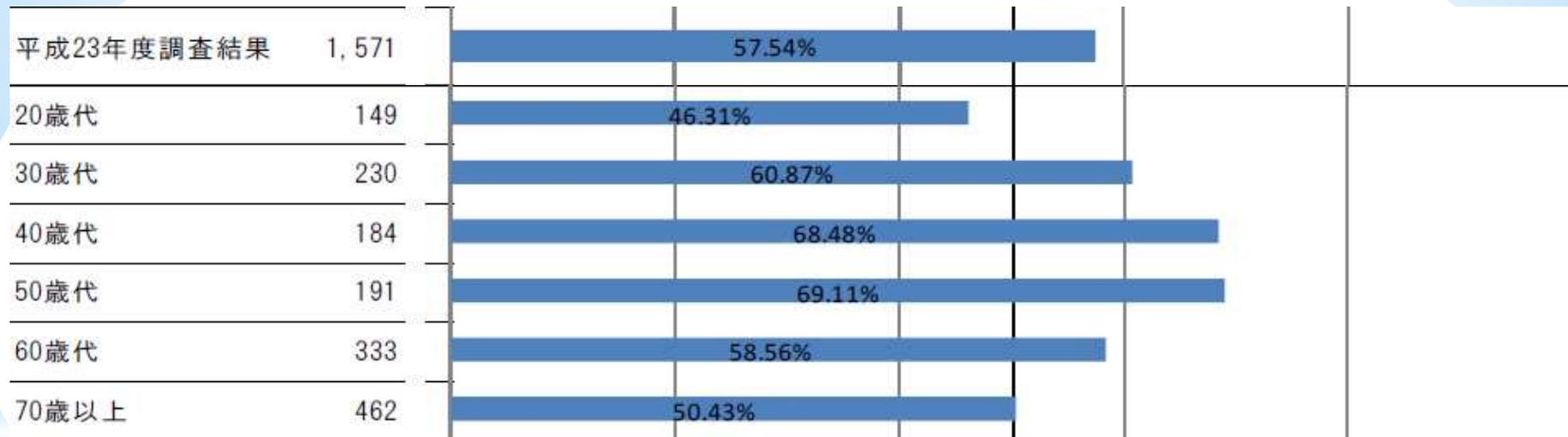
人口 51,474人  
世帯数 24,862世帯  
少子化率 3.4%  
高齢化率 29.0%  
H.24 3月31日現在



2030年 予想高齢化率 39.3%

# ① 老後アンケート

\*あなたは老後に不安を持っていますか？

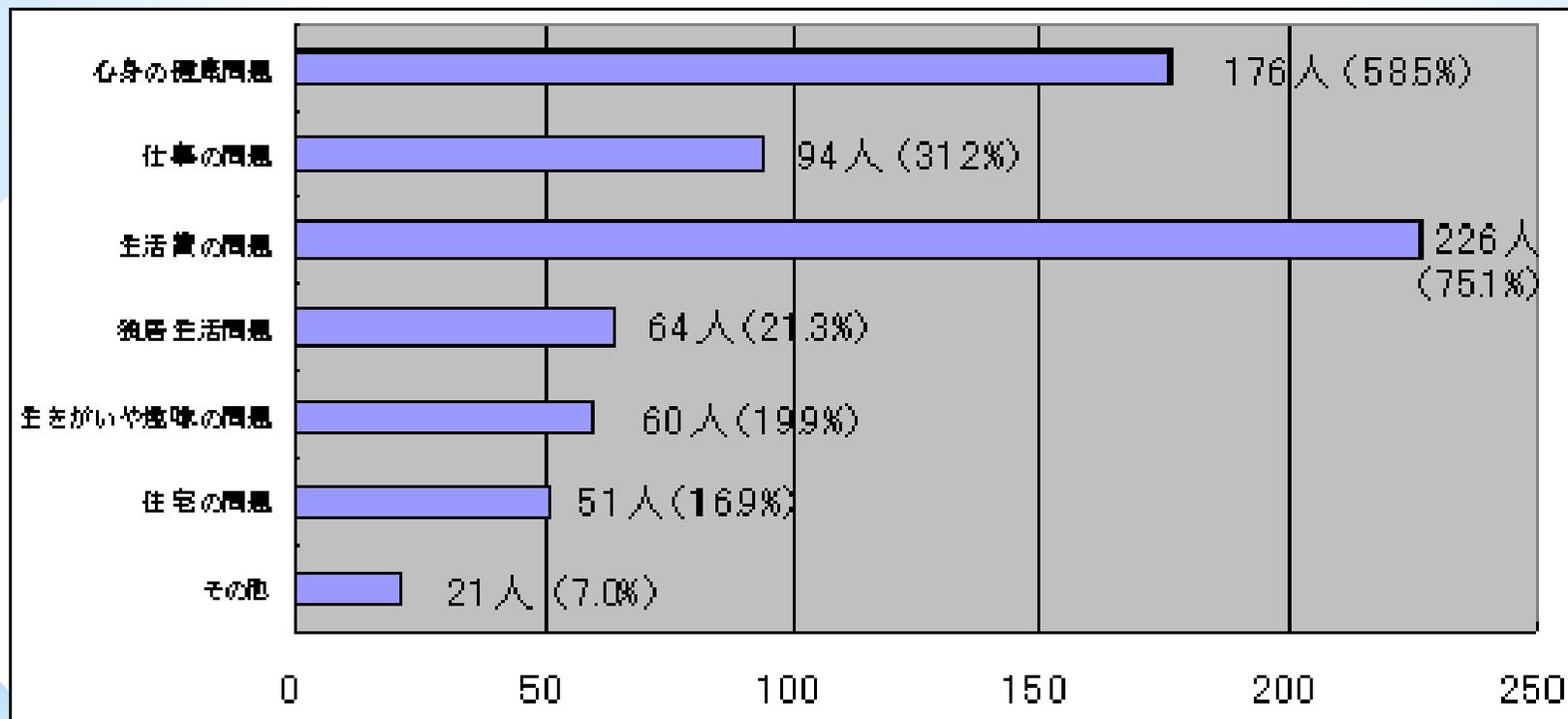


最も高いのが50歳代の約70%

約6割が老後を不安視している

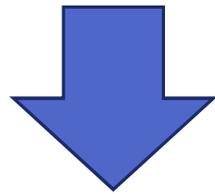
# ① 不安要素アンケート

どんな不安をもっていますか？



生活費の問題  
心身の健康問題  
生きがいの問題  
独居の問題

理想② 向こう三軒両隣のつながり



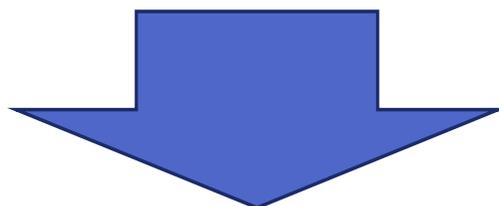
登別市住民の現状のつながりは？

## ② 住民同士のつながり

自主防災組織とは…

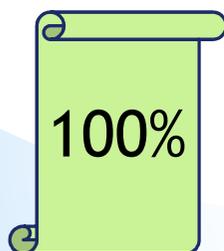
地域住民が協力・連携し、災害から「自分達の地域は自分達で守る」ために活動することを目的に結成する組織である

(例) 復旧・復興期には自主防災組織と地域住民とが力を合わせて自分達のまちの再生に向けた様々な取り組みを行う

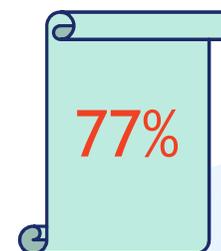


自主防災組織の設置率＝住民同士のつながり数値

枚方市の自主防災組織設置率



登別市の自主防災組織設置率



## ② 祭り・イベントの比較

\* 住民向け

\* 豊水祭り 40店舗 ほぼ100%幌別地区住民

\* 刈田祭り 毎年約5,000人 隣の地域からも来客

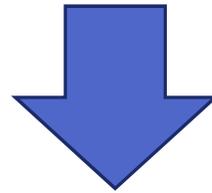
\* わくわく広場 毎年約3,000人 商店街の有志、促進期成会、青年会

\* 外部向け

\* 登別地獄祭り 市民1割程度 出店募集なし

\* 登別温泉湯祭り 市民1割程度 店舗なし

**理想③** 温泉地と市民が協働しあっている



登別市民の温泉利用状況は？

# ③ 住民の温泉利用状況

\* 他の年代に比べ60歳以上の利用率 比較的高い

■ グラフ2-8-1-(1) 登別温泉に行く頻度



\* 高齢者(要援護者)に利用しづらい **49.7%**

\* 坂道・バリアフリー

\* お風呂 (段差・部屋から遠い)

\* 介護者がいない

# ③ 住民の利用率が低い

■グラフ2-8-1-(3) 1年間の日帰り回数(2-8-1-(1)で登別温泉に行くと答えた人の内訳)



5回以上の利用は全体の約30%  
4回以下の利用は全体の70%に留まる

# 結果

- \* 老後に不安を抱えている
  - \* 生活費の問題
  - \* 心身の健康問題
  - \* 生きがいの問題
  - \* 独居問題
- \* 住民同士の繋がりが希薄である
  - \* 自主防災組織の設置率
  - \* 温泉PR祭りの住民参加率の問題
- \* 温泉地が客のニーズに対応されていない
  - \* 高齢者にとって利用しづらい環境
  - \* 住民の利用回数の少なさ

# \* 解決策

20年後住みたくなる理想の登別

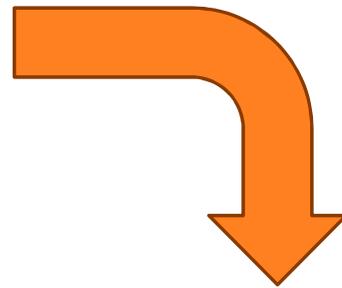
# \*20年後住みたくなる理想の登別

- 1 ・ 老後にも安心して生活を過ごせる
- 2 ・ 向かい三軒両隣のつながり
- 3 ・ 温泉地と市民が協働し合っている

# ①老後にも安心して生活を 過ごせる

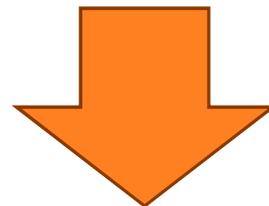
## 問題点

- ・心身の健康問題
- ・生活費の問題
- ・生きがいの問題
- ・独居の問題



## 改善点

- ・独居の問題
- ・心身の健康問題



日々の見守りが重要になってくる

# \*理想へのアプローチ

規模別グループの確立

安心して個人情報を共有できる  
要援護者マップの作成

登別市役所



自治会



近隣住民

市全体の要介護者分布を載せた  
要援護者マップを作成



分布図を全地区から集め  
市全体の要援護者の分布を把握

災害時の避難勧告の際、マップをもとに  
要援護者の住んでる地域をまわる



個人情報を載せず  
分布図のみを共有

要援護者台帳を作成し管理

## ②向こう三軒両隣のつながり

笑顔・人情あふれる登別

“隣組” 戦時中から戦後に掛けて流行した歌

♪ とんとんとんからりと隣組 何軒あろうと1所帯  
こころはひとつの屋根の月 まとめられたりまとめたり



助け合いの精神

### つながりに必要な物

1. 住民同士の交流の場 今回はここに着目
2. 近隣住民同士が把握し合うこと

# \*理想へのアプローチ

キッカケとして・・・ 登別地獄まつり・登別温泉湯まつり

世代間交流

町内会同士の  
つながり

祭りに住民が参加



多くの人とのつながり



市全体につなごりの輪が広がる

露店の出店

祭りへの  
参加協働

# ③温泉地と市民が協働しあっている

近年の温泉地は観光客が主にターゲット

内部の人間（市民）が内部資源の善し悪しを知る



内部（市民）が良さを知り外部へ発信する  
改善点を見直すきっかけになる

温泉から“銭湯”へ



観光客にとってはブランド、市民にとっては憩いの場  
市民の利用率UPでシーズン時外でも客足を確保  
通うことで新たな発見の可能性

温泉地側、市民側双方の  
歩み寄りが必要

両者メリットのある  
Win Winの関係の構築

# Win Winの関係とは？

温泉側

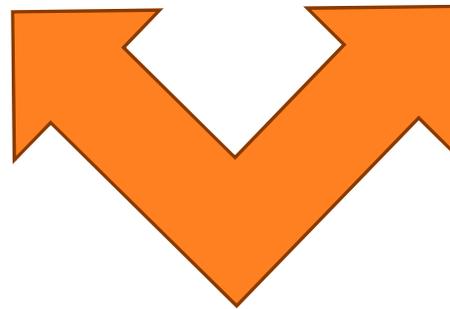
**市民パスを発行**

市民に安価で多く通ってもらい  
温泉地への意見を出してもらう

住民側

**市民によるボランティア**

温泉地での高齢者に対する  
ボランティア



Win Winの関係

# 理想へのアプローチ

## 温泉側

市民パスポートの発行  
(パスがあれば登録された  
温泉の入湯料が一律500円)  
・年会費 1,500円

## 市民側

ボランティア活動  
温泉地での  
高齢者(要援護者)の補助

パス発行のみでなく  
補助が必要な位置を把握する  
アンケートを定期的に行い  
市民の意見の抽出を図る

ボランティアはもちろん  
温泉地と協働で  
温泉地の質の向上を図る

# \*まとめ

Quality Of Life(QOL)の向上のため

QOLの向上

住民同士のつながり  
またそのつながりと資源を  
うまく活かしていくことが  
**QOLの向上につながる**

近隣のつながり

協働

QOLの向上=住んでよかった・住みたくなる登別に近づく

ご清聴ありがとうございました